

白羽小学校 海洋教育授業

平成 28 年 07 月 14 日

- 日 付：平成 28 年 7 月 13 日（水）
- 時 間：6：30～11：30
- 場 所：南駿河湾漁業協同組合、御前崎魚市場、静岡県温水利用研究センター
- 参加者：白羽小学校 5 年生（児童 53 名、教員 2 名 計 55 名）
- スタッフ：石原、川口、他 2 名

今年度初めての試みとなる、学校との連携授業が開催されました。この取り組みは、『御前崎の子ども達が、地元の海や自然の素晴らしさを体感し、愛着・親しみを持ってもらいたい。』という思い、目的の基、実現しました。当日は、天気の方が心配される中でしたが、第一回目となる海洋教育事業が無事に行われました。



今回は、白羽小学校に通う 5 年生の児童 53 名が『漁業から学ぶ御前崎の海』と言うテーマの基、通常よりも 1 時間早い授業開始時間と言うこともありましたが、子ども達は元気いっぱい御前崎魚市場に集合し、授業が開始されました。



まずは、御前崎の産業とも言える漁業について見学を行います。

実際の漁業現場の見学は行えませんが、漁船からの水揚げから競りまでの流れを見学しました。この日、一番初めに始まった競りは、御前崎を代表する魚ともいえるカツヲです。市場構内は、足元も滑りやすく、またフォークリフトの往来がある為、市場の外から見学をさせていただきました。初めて競りを見る子ども達は、興味津々の様子。同時に、どんなやり取りをしているのか…？という疑問も。



続けて、金目鯛、地場魚の競りを見学しました。競りの前には、構内に入らせていただき、実際に競りが行われる沢山の魚も見させていただけました。

その後、漁協の職員の方、漁師さんから、競りの方法や漁法などについてお話を伺いました。

子ども達は、見学を通して感じたことを質問し、色々なことを教えて頂きました。



そして、最後の見学となるシラスの競りについては、船からの水揚げ～競りに至るまでの流れも見学することができました。

教えて頂いたことを踏まえての見学となったこともあり、競りの様子を見る視点も変わり、『今～してる!』といった子ども達からの声も多く上がりました。

見て、感じ、疑問を解決した後に、改めて見ることで、より深い学びとなったように感じます。



競りの見学後は、漁協施設内へと場所を移動し、御前崎の海・漁業の現状などについてお話を伺いました。学校で学んできた環境問題などにもリンクしたようで、子ども達は真剣に話を聞いていました。お話を伺った後、漁協の皆さんから『海藻おしぼのシオリ』を頂き、また御前崎で水揚げされたシラスを加工した『釜揚げシラスとチリメン』の試食もさせて頂きました。子ども達は大喜びで、用意されたシラスとチリメンを完食しました。



市場での活動最後には、魚を貯蔵する-30℃の冷凍庫に入らせていただきました。あまりの寒さに大きな声を上げながらも、子ども達は楽しみながら-30℃の世界を楽しみました。漁協での活動を終え、次の活動場所となる温水利用研究センターに移動します。



先程までの薄曇りも嘘のような青空の下、温水利用研究センターでの活動がスタートします。まずは、施設や魚が泳ぐ水槽の見学をさせていただきます。魚のエサとなるプランクトンをビーカーで見せて頂いたり、アワビの幼貝、クエやマダイ、ヒラメの親魚などが泳ぐ水槽を見学させていただきました。大きな魚に子ども達も興奮気味の様子でした。



見学を終えた後は施設内に場所を移動し、温水利用研究センターの取り組みや養殖・種苗生産の必要性のお話を伺いました。漁協での見学と重なる部分も大きく、子ども達は真剣にお話を伺いました。



本日の活動の最後には、(一社)スマイルプロジェクトの代表 石原による、御前崎の海の現状を伺いました。そして、『御前崎の海をもっと楽しんでほしい!!』という、メッセージを子ども達に伝えさせていただきました。

朝早くからの活動だった為、子ども達もさすがに疲れた様子でしたが、温水利用研究センターから学校に戻る際、アワビの幼貝の貝殻をお土産に頂きました。

子ども達は、普段では見る事の出来ない漁業の現場や養殖・種苗生産の現場を見学させていただき、一日を通して多くの事を学ぶことが出来ました。次回は、7月22日(金)に東海大学の先生を招いた講演が、白羽小学校で行われます。今回の体験を活かし、より深い学びをしてもらえたらと思います。